

第一類永久保存

斜里村

斜里郡

艾君瑁村

止別村

朱田村

遠音別村

村誌

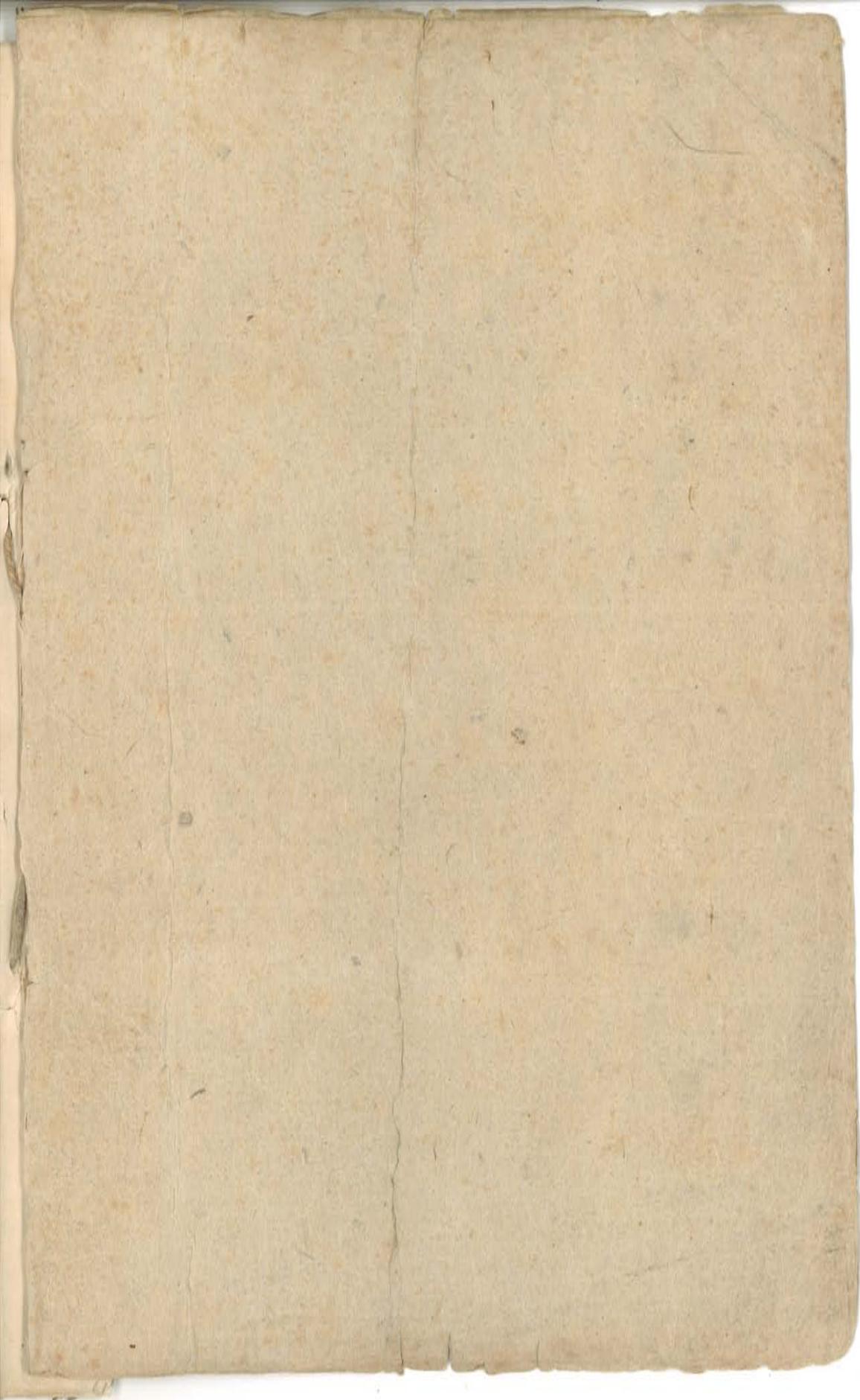
172

庶務

斜里外四ヶ村戸長役場

高紙号抄出枚

五七



沿革

明治二十七年以前の記録、徴スヘキモノナク其詳細ヲ知ル
事能ハズレトモ口碑其他ニ依ル時ハ當村ノ開始是古
ク今更ニ凡ソ百年以前ケラント云フ松前藩時代ハ運
上屋、支配、爲シ幕府、直轄ト云ヤ會津藩具
守備、任スル等種々ノ変更遷リ経テ阿松使、管轄
、取スルニ至リ明治十年十月二十五日分二十七区二三四小区
区務所ヲ置カレ總代人川端又三良、区務取扱
兼勤ス示后長、後、川端又三、中前
田友弘和賀魚取永田高致中山龍重後藤弥
次中福原才中ヲ経テ現任兼重浦次中ニ至ル
松前藩統轄時代ヲ維新ニ至ル時居民ハ概シ
主人ニシテ海岸ニ住シ漁撈ヲ業トシ僅少ノ内地人漁

明治二十七年

期ニ云上ハ来リ土人。使役シテ漁業ヲ営ミ漁期去ルト
 共ニ番人ヨリ遺シテ去ル惟新前後ニ於テ漁業家トシテ資産
 声望最モ高カリシハ藤野四郎兵衛ニシテ當時ハ蓋村ノ居民殆
 ト主従ノ關係ヲ有シテト云フ今尚多老ノ漁場漁合家屋
 倉庫等ヲ有シ且下田ニ立テ生業ヲ営ムヲチナカラス開拓
 使時代ヨリ拓地殖民ヲ奨励シ農事教師ヲ遣ヘテ耕作
 作法ヲ指導セル等ノ厚カ至ラシキト云凡拓地拓北ニシテ
 交通且敷不便ナレバ以テ若シキ効ヲ養セリトカ以テ
 二十二年(上)新島原野九百六十六町餘島別原野千百
 七十二町明正二十二年(上)斜里原野千九百九拾五町
 止別原野千五百八拾五町ヲ開放セテ拓地殖民
 次第ヲ遂テテ進ニ以テ現今ノ盛況ヲ望ムルニ至レリ

境界

東北に根室國西に洞主郡蘆琴村に界し南に釧路國
に隣り北にオホソウウ海に面せり東西二十六里南北十一
里余の面積約七十餘方里

地勢

東南一帯山岳重疊樹木繁茂にして別川に源ヲ銅陸
國境に設し止別原野ヲ要ス流レ海に注グ斜を川に源ヲ根
室國境に設シ數多ク細流ヲ併セ上斜原原野斜を
原野アツカシベツ原野ヲ貫流シ海に注グ斜を川止別
川流域一帯に廣漠たる平原ノ沃野遠ク互リテ農
耕に通シ東南に進ミ陸に漸ク丘陵起伏シ銅路
根室國境斜を山嶽ト考ムチプトマリテ知床岬に
至ル間ニ土地疏確ニシテ耕作ニ適ス根室國境に
遠音嶽硫黃山等峙ク硫黃山ハ硫黃の産

と嘗て函館へ皆月善六探堀しめん也 今や其業
ヲ廢セリ 函館湖ハ蒼瑠村ノ西北洞志郡ノ薄琴村ニ
跨リ瀕海地ハ砂礫ニシテ耕作ニ適セザル也 鱧
鱧鱧ノ漁場多シ

斜里村朱界村界ハ假定縣道ノ境界トス

細走支廳ノ電報ニ通達 細走電行自發第五二號

但し昭和十二年八月二十日 省印收受件者 第五二九四號受

四十二年度第一類 卷目 貳拾五号 卷看

戸口 明治三十八年十二月三十一日現在

現在戸数二百九十三戸

内 本籍百四十一戸
寄留百五十二戸

但し内旧主人本籍五十三戸寄留七

現在人口八百三十三人

内 本籍 男二百三十四人
女二百四十八人

寄留 男二百六十六人
女二百二十四人

但し旧主人本籍

男六十七人
女八十八人

寄留七

産業

斜外四ヶ村ハ漁業家二十戸高家二十戸工業家四戸
他ハ悉ク農業ヲ以テ生計ヲ営ミツマハリ

昔時ハ居民皆漁業ニ従事シ由是ニ生計ヲ為スルニ
近時不漁打漁ヲ被禁テ結果轉業ヲ為スルモノ頗
ル多カリシニ昨三十八年今三十九年鯨鱈豊漁ノ為
メ稍恢復ノ緒ヲ見スルニ如シ

商家ハ概子日常必須ノ貨物ヲ販賣スル小賣高家
工業家ハ構寸軸木ヲ制衣造靴輸出スルモノニシテ一年

生産額約三千五百俵此價格約壹万円ニシテ本部
如キ原料ノ豊富ナル地ニ在リテハ后来是々有欲
ニ事業ありトス

農業ハ薄荷及麦類ヲ主産トシ副産業トシテ

新元支那銀行

是年産量、従事するものも其數是より少なり
 牧場の経営は、アルを未だ事業業ノ緒にシテ収益
 が見ルに云エラス

最近五ヶ年間の生産物ノ收获及價格を如し

海産物	海産	物産	林産	産
年度別	三十四年	三十五年	三十六年	三十七年
年度別	三十八年	三十九年	四十年	四十一年
産	一、一三六	一、二九八	一、五七八	一、四九二
額	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
價	二、一九七	一、八一六	二、八五九	三、〇二九
格	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
産	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇
額	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇
價	一、一六四	一、一六四	一、一六四	一、一六四
格	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇

明治三十二年四月廿九日

物 産 農			物					
三十八年	三十七年	三十六年	三十五年	三十四年	年 度 別	三十八年	三十七年	三十六年
一七、二五五	九三九	四六八	五三二	一五七	産 額	七、〇五四	三、五九四	二、四六四
〇〇〇	八〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	額	〇〇〇	七〇〇	〇〇〇
一〇、九四二	四九八三	四七二一	八五七	一、一三五	價 格	一四、三三六	一四、一二九	九、〇〇二
〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	格	〇〇〇	五〇〇	〇〇〇

新元三ノ原管内戸目録

交通

綱走斜里間及斜里標津間及定縣道ハ綱走ニ起リ
 甘澤琴丸岩瑯止別諸村ヲ經テ標津村ニ達ス甘澤
 琴丸岩瑯村境ヲ斜里村ニ至ル間ハ概テ治山所
 砂礫ニシテ人馬車輛通行容易ナラズ斜里村越
 川越ヲ以東ハ斜里山道下稱シ坂路ノ勾配甚シク
 津島ヲ通セス秋冬ハ烈風積雪ノ為メ通行ヲ
 杜絶スル一往々有之硫黃山道ハ綱走ヲ來リ
 止別村ヲ經テ銅路岡硫黃山ニ達ス其間急斜
 ノ坂路多キニ辛シク人馬車輛ノ通行ニ便ス
 籠莫別道道路ハ斜里村ヲ籠莫別原野
 西四線ニ至テ六部道路ハ依定縣道根室街道
 六部線交又又点ヲ籠莫別原野西四線

39年 柳北

籠莫別原野西四線

ニ至リ 飽寒別原所チツブトマリ間道路ハ仮定

縣道根室街之道ニ野線交叉点ヲ朱田村字チツ

トマリニ至リ 斜里原野斜里原野排水道路ハ斜里

橋ヲ十野線ニ云ハ共ニ人馬車ノ通行自在

ニシテ各原野住民日常必須ノ貨物農産

物ノ輸出入悉ク此道路ニ依ル然レモ住民原

野ノ廣闊ナルニ比シ既設道路至テ僅少ナルヲ以テ

掘上ニ望ミ係少チオラス故ニ各原野道路ノ速成ヲ

希望シコトス 其最モ急ナルハ斜里野川間道

路ナリトス 此路線ノ同敷金ヲ見ルニ至ラハ斜里上斜

里止別諸原野ノ間各宜ニ發掘クベキデアラン

前述ノ如ク他國郡ニ通ル陸路ハ甚ク不完全ナルヲ

以テ本郡輸出入貨物概シ海運ニ依リ補助定期船

八東五週共四月より一月間八月二回ノ寄港アリ其
他補助定期船外臨時船舶ノ寄港アルモ港灣直
夕悪シク少シク風浪ノ起ル時ハ何程ク急ス事能ハス
加之十二月ヨリ翌三年三月ノ至ル間ハ流水ニ因リ
船舶寄港スル事能ハサルヲ以テ十月終航
ニ於テ越年準備トシテ多大ノ貨物ヲ輸ルヤルマカ
ラサル等其不便甚シトス

斜里村市街地ニ三等郵便局ノ設置アリテ郵便

電信ヲ取扱フモ遠音別村ハ事便集配区止別村

(字ノ清野川ニ郵便局アリ)ハ各期月三回ノ集配止別村字ノ清水

ハ網走局ノ集配区止別村字ノ野川及上斜里原

野ハ弟子屈局ノ集配区止別村字ノ清水

ニ至ルニ急ヒサルヲ以テ故ニ止別村字ノ清水ニ

附録ニ依リテ

新元文曆管内月長巻上

郵候届ヲ設置スル時ハ居民ニ至大ノ便利
ヲ興フルノミナラス施テ拓殖ノ進歩ニ功具ルル少
ナカリカレズ

拜里川サラバ川ハ舟楫ノ便アルモ多年後深セ
カルヲ以テ流亦壅積シ目下河口ヨリ僅ク一里
許リノ上流ニ剛心ニ過キサルモ河川ヲ凌深シ流
亦ヲ掃サ傷スル時ハ五里以上ニ遡ルヲ得大ニ運
輸ノ便ヲ封印助スルノミナラス治山師ノ湿地ヲ乾
燥セシムルノ間接ノ利益又少ナカラス

官公署

斜里外四ヶ村戸長役場

明治十一年十一月二十五日設置せり

官署轄区域 斜里村 倉岩堀村 止別村 遠音別

村 牛内村、五ヶ村以上

調査結果 倉岩堀斜里外四ヶ

年月日不詳 斜里村番外地戸長役場内、於て

戸長青 祐三郎 明治十一年十月廿日 斜里村番外地

分設明治三十七年二月二十六日 斜里村番外地

現今ノ二區 左ノ二 移移

官署轄区域 斜里村 倉岩堀村 止別村 遠音別

村 牛内村、五ヶ村以上

林協保 調査派出所 斜里保 護區 左ノ二

明治十一年十一月二十五日設置せり

新元式府管内月長行

明治三十年四月一日森柵着 留守駐在所ヲ四五カノ明

治三十年五月一日現今ノ名称ニ改正

竹官轄区域 斜里村 峯岩 村止別村 朱田村

遠音別村、五ノ村トス

斜里郵便局

明治八年七月四日創設

集配区域 斜里村 朱田村 遠音別村 峯岩

村止別村

庄小清水野川
上斜里原野

字等十ノ

社寺

科屋山禪龍寺、曹洞宗、明孝流、報恩寺末

、レ、明治三十二年七月許可、得、護教場、

創設、担當教師、鈴木雄禪、能、力、

布教、房、苦心經營、結果維持全連

物土地等信徒、寄附、得寺、難、公、稱、

出、形、明治三十八年四月二十六日之、許可、

得、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、

寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、

一、維持金、八百円

一、建物、四十坪

一、境内、七百二十六坪

一、檀家人、員、百二十四名

寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、

一任職 鈴木雄禪
一檀家 徳茂

泉田庄藏

平田嘉志

水野仁藏

加藤文治

二坪校或拾二坪或合五夕今年九月新築校舎二
移転し且こま校舎の面目一新なり現今校舎即
之レナリ二十七年四月小原篠條辞職今年五月廿三日

御聖影下賜せらる此月奉迎式ト合時ニ

移転式舉行ス今年七月伊府之志准訓道寺に任セ

らん廿八年二月伊府之志辞職今月吉川要授業雇

ラ被存今年七月准訓道寺に任セらん二十九年四月有志

者、宮内附金ヲ以テ凡琴志屋ヲ購ハセリ三十年八

月校舎四坪今年二月十坪増築ホ至今年十月吉川

要退職和田芳平訓道寺に任セらん今年十月休職全

月伊府之志臨時教授ヲ囑託セらん三十三年七月

雇教員ヲ奉セらん三十三年二月十日有志者、宮内附

以テ 御聖影奉置所 校舎内ニ築造

今月十日 祀元竹郎ノ祝賀ト同時ニ遷座式ヲ舉
 行セリ 三十三年 伊藤友吉 退職 川村直之 訓導
 任セラル 三十五年 十月十七日 就學ク出 席 歩合 九
 以上ニ達シタルヲ以テ 學事 獎勵 規程ニ依リ 各 譽 旗
 授與セラル 三十六年 十月五日 補羽白科 認可セラル
 今月 廿日 川村訓導 休職 今月 鈴木三郎 校長 兼
 訓導 任セラル 三十八年 六月 鈴木三郎 増毛郡 初
 山別 尋常 小學校ニ 転勤 今月 六月 萩村 恩
 順 校長 兼 訓導 任セラル
 創立 五ノリ 現今ニ至ル 卒業 証書 授與式ヲ 舉 行
 シタル 幸 拾 式 固 卒業 児童 男 四十六人 女 四十八人
 三十八年 學年 末 就 學 児童 左ノ如シ
 男 十六人 女 二十六人

國三ノ... 長九ノ...

○能寒別簡易教育所ハ明治三十三年三月設立、
 認可ヲ得全年ハ朔ヲ授業開始校舎ハ斜里
 村手民鈴木長六^八家屋ヲ寄附シタルヲ以テ
 此坪敷四十五坪柏樹惠海代用教員ヲ命セリ
 一校ヲ担任ス示来寺本曉惠淺賀秀司
 郎ヲ経テ現信訓導寺高橋雄治ニ至リ
 新主ヲ現今ニ至リ迄卒業証書授與式ヲ挙
 行シタル事七回卒業児童男九人女三人
 三十八年學年未就學児童里枚存^レ也^レ

男十六人 女十八人

小清水簡易教育所ハ明治三十七年七月、創立
 シンテ山田牧場主山田慎^八係村民ト相謀リ校
 舎ニ充用スル目的ヲ以テ新築シタル家屋二十

一坪の校舎に任用し河口善助を代用教員に任用
し教授の相當をシメタリ三十九年六月辭職シタルヲ
以テ加藤宗三郎ヲ代用教員に任用シ之レニ替
ラシメタリ

明治三十八年學年未現在就學見立屋在如シ

男十二人

女十三人

新庄尋常小學校附屬實業補助白學校
明治三十八年九月、創立ニ係リ、實業ニ行事シ又ハ
行事セントスルヲニ竹間易ノ方法ニ依リ、其職業ニ
必須ノ知識技能ヲ授ケ保テ普通教育ノ足
ラカルヲ補助自白セルニシテ、創立日尚淺ク其効
果顯著ナラスト云凡實業將チ効上欠クベカラハ
機關ナルヲ信ス加之教授ハ尋常小學校長

ニ囑託スルヲ以テ義務教育有見童ニ不知不識ノ間
ニ於テ實業思想ヲ養成セシムル等其裨益少
ナカラス

三十二年學年未現在就學生徒數左ノ如シ

男十五人 女八人

富部内ハ斜里全郡ニシテ東西三十六里南北十里區域
ノ廣濶ナルト此ノ如ク新聞ノ地ナルヲ以テ部並浴ヲ
形成シタルハ斜里市街地ノミニシテ他ハ民家各所
ニ點在シ道路ハ既ニ開設全クタルニ是ヲ少ナク住
民荆棘ヲ刈ノ間キ辛シク一通行スルモノナルヲ以テ
幼童通學ノ困難甚クシキニ拍子スニ三八年
學年未於テ就學歩合百中八七ヲ見ルニ至ルハ
意思想外ノ好結果ト云ハカレバカラス

衛生

本村ハ明治二十六年中痘瘡患者男一名明治三十二年中
 實扶的利亞患者男三名明治三十五年中男一名
 女一名實扶的利亞四堆ハ之ハ何シモ特設ニシテ
 流行ヲ見スレタ止シタリ

明治二十二年一月始メ村医ヲ四道ノ示存現今ニ至ル
 村醫面及地方其神助顔左表ノ如シ

期間	村
自明治二十二年 至ノ三十二年	
自ノ三十五年 至ノ三十七年	
自ノ三十九年	

村医氏名
山内英司
佐多太郎
佐藤豊明

期間	村
自明治三十二年 至ノ三十五年	
自ノ三十七年 至ノ三十九年	

村医氏名
中山越助
外山昌藏

明治三十二年

新元支那管内月長行

年度 名称	地方費補助額	年度 名称	地方費補助額
明治三十二年	一六五	明治三十三年	三九
〃 二十七年	一六五	〃 三十四年	六七
〃 二十八年	一六五	〃 三十五年	七〇
〃 二十九年	一二五	〃 三十六年	九三
〃 三十年	六五	〃 三十七年	七三
〃 三十一年	一七二	〃 三十八年	一〇〇
〃 三十二年	四六	〃 三十九年	一〇〇

備考明治三十六年度以前ハ詳ナラス

斜里村衛生組合ハ明治三十二年三月十日ノ創設ニシテ
 其經費年々村費補助ヲ保テ維持ス漸次移民
 ノ増加ニ伴ヒ得未ノ組合ニテハ充分ノ活動ヲ為ス
 能ハサルヲ以テ其区域ヲ擴張シテ斜里外四ヶ村トシ

規則ヲ改正シ役員ニ組長副組長各一名部長若干名
伍長若干名ヲ置キ存組合ノ事務ヲ執行セリ

墓地

斜里村番外一、二、三、於テ志段四畝十八歩明治十九年十月
二十日斜里村範寛九別原野第一線二十五番地ニ於テ四段
式畝十五歩明治三十九年三月一、設置認可

止別村止別原野第一線第十一号七十七番地ニ於テ卷
百歩明治三十九年四月一日付リ次、墓地設置出願中

火葬場

斜里村番外一、二、三、於テ卷畝十歩廣之音別村字イタシベ
ウニ、於テ六畝二十歩明治十九年十月廿日設置認可
止別村字止別原野第一線第十一号七十七番地ニ於テ五
畝歩明治三十九年四月一日付リ以テ出願中

續文獻通考卷之四十五

財政

歳入歳出

年次	歳入	歳出	備考
明治三十五年度	二一、四四	二一、〇四四	決算
三十六年度	六一、七四〇三	一八、八	
三十七年度	二六、〇五八一	二、一九	
三十八年度	二〇、九六一五	二、〇一	
三十九年度	二七、〇二一九	二、三〇	
四十年度	五三、二一一四	五、二一	
四十一年度	五六、〇一三六	五、四七	
四十二年度	四六、一四五六	四、六一	
四十三年度	七七、五八五一	七、九五	
四十四年度	八二、五八一五	七、八七	

明治三十七年三月三十一日現在

明治三十五年	二二九二	一〇七	一一四七	八一九	決算
三十五年	一五四九	四四一	一五一三	二五二	
三十五年	一一〇三	二二二	一一八七	三四九	
三十八年	一六一〇	四七四	一五九七	七三九	
三十九年	二四八二	七九〇	二四八二	七九〇	豫算

従来并対住民、納税ヲ等閑ニ付ルニ惡弊相白アリ以テ
 明治三十七年八月之ニテ矯正ヲ謀ル者、斜屋外四ヶ村納税
 組合ヲ設ケ、戸長組長在ニ當リ、所村組合組長ヲ以テ委
 負ニ任シ、常ニ納税上ニ注意セリ、或ハ苦訴ヲ受シ、納
 税義務ノ重クスヘキヲ知ラシメ、令狀配付毎ニ注意要
 項ヲ附記スル等、鋭意納税ノ改善ヲ計リタル結果、漸
 次其成績佳良ニ至キ、本年第一期諸税及公課
 金、如キモ現任者ニシテ滞納処分カク受ケタルナキニ

至リ

町村事業

基本財産造成組合村資本を登達^{補助スル}ヲ目的トシ漁獲
 物農産物價格ノ緩分若クハ收獲物ノ緩分有志
 者ノ願出金冠婚日弔禮^{善法}ノ紀念事業等贈金
 品等ヲ贈集シテ村基財産ニ寄附スルモノトシ明治三
 十七年七月二十日ノ創設ニシテ村民全般ヲ以テ組合員
 トシ現今ノ組合長三氣屋浦次郎年廿八歳ハ十四名ニ
 シテ本事業上ノ費途ニ努メ居リ勤儉貯蓄ニ着
 組合ハ本者修遊塔ノ弊風ヲ去リ勤儉貯蓄ノ美
 風ヲ養成スルヲ目的トシ管理者ハ戸長三氣屋
 浦次郎之ニ當リ明治三十八年十二月十五日調ニ依
 ル時ハ貯金ノ員百十九人貯金額千。五拾八

明治三十八年十二月十五日調ニ依ル時ハ貯金ノ員百十九人貯金額千。五拾八

五拾四歳武屋ナリトス

在御軍之家種、整護組合、任民、一致共同依り、戦時應召軍人、家族ニシテ生計困難ナルモノニ對シ救護又ハ生業ノ援助ヲナシ國民後援ノ実ヲ幾キテ各軍人ヲシテ後顧ノ憂ヒナカラシムルニテ目的トシ明治三十七年八月十日、創立ニ係リ時、戸長組合長ノ任ニ當リ、救護事務ニ執掌シ明治三十九年七月迄十日平和迄復シタル以テ解散シタリ、創立以來、事業、概シ畧者左ノ如シ

應召軍人出生、陰シテハ此行可ハ錢別ヲ為シ又ハ戦地慰問、及血兵品等ヲ寄贈スル家族ノ生計困難者ヲ救護スルニ杖ニ戸十四人戦死者ヲ祭儀ヲ執行シテ杖一人ナリ

軍人遺族の瘠兵救護組合、軍人遺族の瘠
 兵及瘠兵家族ニ對シ、住民共同一致シテ救護若ハ
 生業ノ扶助ヲおスル目的トシ、明治三十九年一月一日創
 設ニ係リ、組長ハ戸長兼重浦吹郎之ニ當リ、部長
 ハ山村健合、組長ヲ以テ之ニ充ツ、創設以來未タ救護
 ノ必要ニ接セサルハ、山村ノおノ日、最モ慶賀スベキナリ
 トス

基金財産造成ハ從來より歳入出決算より生スル剩
 餘金、且庫貯貯蓄を生スル、利子不用品賣却代
 用途ノ指定セラル、高附金等ヲ蓄積シ、來りたる其
 規程ナカリシ、以テ明治三十九年五月八日基金貯蓄財産造成
 成規ニ官理規程ヲ設定シ、從來ノ世行リ、確證シ
 益基金貯蓄財産造成ニ勉メ、現今基金貯蓄財産トシテ

基金貯蓄財産造成規程

事務積立金額左ノ如シ

公債 千貳百七拾五圓

貸入金 百五拾陸圓貳拾九錢六厘

預金 百五拾九圓四拾陸錢七厘

植樹目的ノ以テ 龍寒別屬野ノ於テ 六拾陸萬九千坪

共同放牧場トシテ 上斜里ニ草野ニ於テ 百四拾陸萬

八千七百四拾陸坪 北海道國有未開地貸付出願

中貸付許可事業完成ノ上ニ 其收入ニ至ラズル村

費ニ神壇スル計画ナリ

村是調査会ハ斜里外四ヶ村ノ地勢人情風俗習慣

生産業經濟其他諸般ノ已往及現況ヲ調査シ將來

ニ對スル施政方針ヲ確定シ實力ヲ養成シ本村ノ

發達ヲ期スル為メ調査ヲ為スルニシテ其組織左

龍寒別屬管内局長行

如之

調査委員長

兼重浦次郎

調査主任

早田 尹 義

調査委員

藤海純一

水野仁藏

牧安太郎

栢田源五郎

平澤真吉

外山昌藏

小山田喜久治

新保戸一郎

平田嘉吉

加藤文治

昭和三年三月廿九日 東京

銀行諸念社及工場其他公共團體村農會

山形製軸工場ハ赤田村ニシテ明治三十五年八月ノ創立ニシテ

水製削出及刻ニ岩倉林或台有シ水力ヲ以テ之ヲ

運転シ男女職工或拾人等ヲ使役シ其一年ノ製

軸数量ハ千五百俵内外ナリ

逢坂製軸工場ハ斜里村字飽寒別原野ニシテ明治三

十五年五月ノ創立ニシテ岩倉林ハ亦製削出ニ志望シ

刻ニ武台水カクテ運転シ男女職工約三十名ヲ使役シ

其一年ノ製量産額約千五百俵内外ナリ

津田製軸工場ハ斜里村字赤上ニシテ明治三十八年七月ノ創

立ニシテ岩倉林ハ亦製削出ニ及刻ニ志望シ各動機ハ水車

ニシテ男女職工十餘名ヲ使役シ一年ノ製量産額ハ六百

俵内外ナリ 中ノ森田錦太郎ト下ノ山形

斜軍外四ヶ村農会、明治三十二年九月有志相謀り設立計畫
 ナリ今月創立委員選舉等ヲ施行セリ。川畑又三郎、泉田庄藏
 中澤真吉、半田嘉吉、藤澤純一、五氏當選。今月設立
 認可申請。今年十月四日付リ以テ認可セラル。此ニ於テ今月
 八日總會之開キ會則リ議定シ役員選舉等ヲ行ヒタルニ
 會長ニ栗原佐吉、副會長ニ鈴木春夫、評議員ニ平次
 真吉、岩淵寅藏、石川芳次、難波村四郎、諸氏當選
 茲ニ農会成之ヲ告ケ當時、會員四十名。今年十月、佃走外
 三郡農会ニ強加盟セリ。今年拾六年五月、栗原會會長
 任滿キ石川芳次之ニ送ル。今年六月、石川會會長辭任
 新保戸郎之ニ代ル。此期間、草創時代ニシテ諸事整頓
 マカント以テ施設計畫、夏ルキキチナラ殆ト有名無実ノ状
 態ナリトシテ、今年十月、農会令ノ改正アリ、隨テ會

明治三十二年九月

別ヲ改正セサルベリ
三月九年二月廿日總會ヲ開キ

改正會則ヲ議定シ及役員ヲ選舉シタルニ會長兼重

浦次郎副會長兼澤真吉評議員ニ新保正郎

遠坂又吉鈴木忠孝大更科銓太郎笹田良朝水野仁

藏平田嘉吉代表者ニ兼重浦次郎副代表者ニ兼澤

真吉兼重選就任加藤宗ヲ技術員松田厚太郎

牧安ヲ早田千代ヲ書記ニ任ズ今日農會ニ議

規則及三十八年度農會經費收支更正豫養三十九

年度收支豫養經費補助及分賦收六件農會

員基序取産地選定出願件等ヲ議スニ科

里分署長滝本瑞龍科里郵便局長心得塚友

定明ル科里小学校校長萩村男順齋寒

別簡易教員所教員高橋雄治科里水産組合

長小田嘉久信全副組會長竹藤純一村總代八水野仁藏
 塚本命助笹田良朝更科鉄吉郎稻垣吉煥地
 長平田嘉吉加藤文治新保戸郎栗原佐吉竹中安
 之助鈴木養方達坂又吉菊地丈助官内教太郎
 泉田庄藏村医外山昌藏鐘詔製製造所主藤吉通
 之進等諸氏ヲ名譽會會員ニ推選セリ云々主為農會
 之始メテ活動ノ緒ヲ開キ今年九月會會長兼重浦
 次郎ハ北海道ニ於テ農業試驗場及共進會ヲ
 觀ノ為ノ上川及札幌地方ニ出張今年十月七日斜
 里尋常小學校ニ於テ臨時總會ヲ開キ兼重會
 長ハ地方農業試驗場及物産共進會ヲ參觀
 其況ヲ報告シ夫レヲ三十八年度ニ於ケル會務ヲ
 其況及決算夫報告三十九年度經費收支更正追加

三十九年度經費收支更正追加

豫養及徳久、決議ニ関スル件ヲ議スル科長
 今ノ署長ハ相鬼二郎科長 郵便局長川端三
 四郎 森林看守和賀市古村 村医佐藤豊明、
 諸氏ヲ召集會員ニ推選セリ三十九年度ニ於テハ
 畜産會ノ事業ハ、曲辰事ノ講和話會日ノ開
 設種苗、交換ノ供與種苗、現代配付木炭
 製衣造法改良傳習、推茸製衣造傳習、家畜
 購買、將大勸養會將大勸撰種及麦奴豫防、
 實施種牡馬借入等、着々活動シツクアリ、現
 今、會員八十八名ニ達セリ

21

